



# ただら

第25号  
(2025年7月発行)

島根学習センター内  
島根同窓会

発行者 石川直樹

<http://oushimaned.main.jp>

E-mail: info@oushimaned.main.jp



第13回通常総会参加の皆さん

## 第13回通常総会を開催

5月10日(土) 学習センター4階第2講義室にて、第18回市民公開講座に引き続き、通常総会を開催しました。ご来賓に出口学習センター所長、平野事務長をお迎えての開催でした。出口所長から「日頃のセンター行事等に協力のお礼と、当面する放送大学が新しい時代に相応しいICT・AIを活用しながらDXが進み、環境変化のもとで大学の在り方が問われており、学生募集に力を貸してほしい」と挨拶がありました。

総会には52人(委任状38・出席15人)の会員が対面にて参加となり、議長に石川副会長を選出して、議長は議事録署名人に石川議長、竹下孝子理事を指名して総会議事へと進行了しました。

今総会は、これまで取り組んできた事業報告、決算報告・監査報告、新年度の事業計画、予算、会則一部改定、任期満了に伴う役員改選でした。

総会は決算報告と次年度の予算案に一部転記誤りを指摘され、指摘通り訂正となった。会則の一部改定についても修正意見が出され、修正意見通り訂正され、いずれも訂正資料を議事録に同封して配布することとなった。

任期満了に伴う役員改選では、2013年の設立以来同窓会会長として統率して来た、竹下会長が勇退され石川副会長が後任に選出され、新たに3名の役員が選出された。新しい息吹にて活動の飛躍を期待しています。

## 新会長から挨拶

石川直樹



この度の第13回総会(2025年5月10日)で会長に選任されました石川直樹です。会員の皆様よろしくお願ひ致します。

島根同窓会には設立当初から参加させていただいておりましたが、働きながらでしたので、十分に貢献できないまま今日に至っていると思っております。今回の役につきましては重責と思っており、果たしてご期待に沿えるか心配しております。

まずは立ち上げから今日までご尽力いただいた、前任の竹下会長の功績に感謝するとともに、一歩でも近づけるよう精一杯努めさせていただきますので会員の皆様のご協力をお願い致します。

さて、このたびの就任にあたって現在考えていることをお話したいと思います。

ご存じのように、私たちを取り巻く環境は大きく変化するとともに、そのスピードも増し予測ができない状況が顕著になってきていると思えます。島根同窓会が設立された12年前から現在までを見ても、国外ではロシアのウクライナへの侵攻、イスラエルのガザ地区への攻撃、イスラエルとイラン戦争など平和を脅かす事態の発生、新型コロナウイルスによる世界規模の社会的危機、また国内では少子高齢化の一層の進展、地方の疲弊、労働力の不足、地震や豪雨災害、特殊詐欺や強盗の横行など、あげればきりがなく、従来では想像もできなかったことが次々と起こっています。そんな中において、私たちができることは、小さく限られたことではありますが、放送大学で得た多様なものの見方や知見を活用し、自らの目的を実現することを通じて平和や社会貢献につなげることのお手伝いを、同窓会活動を通じてできたらと思っております。

またこの間、我々放送大学を取り巻く環境も激変しました。効率化の推進やICTの進展などの名のもとに行われる施策は、必ずしも学生のために

ならず、学生のセンター離れを進め、学生同士の一体感を薄れさせる結果となっています。このことは、遠隔での学習をしながらでも学生同士のつながりを持ち多様な人材を輩出する、放送大学の特色をなくし、形だけの大学になってしまうのではと危惧しています。聖域なしの効率化ではなく、存在意義に関わるミッションの維持は死守してほしいと願っています。そのために同窓会としても、センター事業には可能な限りの協力をしていく所存です。

次に魅力的な同窓会活動の推進について、先般の同窓会連合会の総会でも議論になりましたが、すべての同窓会で会員の高齢化と新規入会者の確保が課題となっています。特に島根のような地方の同窓会は問題が顕著です。島根としては、センターに集まる機会が減るなか、何とか会員が集える場を提供することから始められないかと考えております。そこを起点に会員相互の交流と新規会員の取得につなげたいと考えています。今後、役員の方と協議をしながら具体案を提示していけたらと思っております。

最後にもう一つ地域貢献の推進です。全国に先駆けて地域貢献を規約に掲げているのが島根同窓会です。大学設立の経緯からしても放送大学が一般大学と同様の認知を受けにくい状況があることは認識しています。企業等などでの一般的な認知にはもう少し時間がかかるかと思いますが、逆に多様な人材を内部に抱えていることは他の大学にない強みとなっています。

これを活用し会員がそれぞれの職場や地域で、それぞれのやり方で貢献していくことが可能であり、その結果として認知度も高まり学生の確保にもつながっていくと思えます。

まずは会員自らが放送大学で得た知見を自分のみならず職場や地域に生かす取り組みをしていくことが重要であると思えます。私自身も地元自治会の役員としての活動や修論の研究成果を文化顕彰団体で活用するなどして積極的にかかわりあい持つよう努めています。少し時間のかかる取り組みですので即効での成果は期待できませんが、着実に認知度をあげていくことと信じています。

最後になりましたが、予測できない不確実性が増している時代です。だからこそ会員の皆様と手を取り合いながら、ともに語り、ともに楽しみながら進めていきたいと思っております。よろしくお願い致します。

## 色のない世界に生きる

所長 出口 顕



大学で同期だった者たちのグループラインが始まって三年になる。当時新設の大学の第一期生で80名のうち半数近くが参加している。そのうちの一人が定年後美術大学の夜間コースに通った成果を作品としてアップロードしている。いろいろな展覧会に入選しているので、彼はライン上で「画伯」と呼ばれているが、大胆な構図と色使いは画伯と呼ばれるにふさわしい見事なものである。「画伯」はまた、絵の題材探しもかねてなのだろうが、頻りに世界旅行をしていて、その写真もアップしてくれている。

画伯のような絵心もなく(お金もない)出不精な私は、ふと自分の生活を振り返ったとき、その圧倒的なモノクロームぶりに愕然とした。

趣味といえば読書(おもに推理小説)だが、言うまでもなく白い紙に黒い文字が印刷されている本に視線を走らせて時を過ごす。それだけではない。自らの研究のために読む本や論文も、自分自身で本や論文を書くために見つめるパソコンのディスプレイも、白地に黒の世界である。モノクロで色彩のない生活を単調に繰り返す毎日にわれながら呆れた。

しかしである。モノクロの世界が鮮やかな色彩を繰り返すこともある。二十世紀最高の小説家と言われるマルセル・ブルーストの『失われたときを求めて』を読むと、そこで描かれたノルマンジー半島の海の青や夏の太陽の光が目の前に広がるだけでなく、秋のパリのブローニュの森の澄んだ空気の冷たさまで肌で感じさえる。

私の書くのは学問的な論文や専門書だが、小説のように、写真や絵画以上の彩りの世界を読者の前に繰り返すことができるのではないかと。ときには、不気味で凄惨な日常世界の断面を、色彩を越えた世界として読者に突きつけることも可能なのではないかと。そのためにモノクロの世界に改めて没入する毎日である。「画伯」を越えられる日が来るだろうか。

## 2024年度 第2学期学位記授与式



学位記授与者、来賓記念写真

2024年度第2学期学位記授与式が、3月30日(日)10:40～島根学習センター3階第1講義室で開催されました。第2学期は修士修了者3名、教養学部20名が卒業され、内1名の方がセンター10人目の名誉学生の称号を授与されました。当日の授与式には9名の方々が出席されました。

最初に出口顕島根学習センター所長より学位記が卒業生修士修了生お一人おひとりに手渡されました。続いて次のような祝辞がありました。

「皆さんが放送大学での学んだ知識は、天災・人災を直接回避解決する答えを当ててくれるものとは限りません。しかし学ぶということを通じて様々な知識を身につけ論理的に考えるということを身につけてられました。その能力を社会の中で生かしてください。」と期待を込めた式辞がありました。

続いて、来賓を代表して放送大学島根同窓会竹下会長から次のようなお祝いの挨拶がありました。「今、多くの国民が社会の現状、とりわけ物価高騰、消費税減税、米価高騰とコメ不足、派閥ぐ

るみの危機的犯罪とも言える裏金問題に怒りや不満をもっており、希望をもって暮らせる社会を求めていると思います。高等教育を学んだ皆さんを含めて放送大学を卒業された皆さんにはテレビやマスコミの流す情報をうのみにして判断するのではなく、その根底は何かを知ることが大切だと思います。そこで、私が日頃、実践をしていることを紹介してお祝いの言葉とさせていただきます。個人として何ができるかということで、憲法で保障されている表現の自由を十分に発揮して、何故かと批判をしてみるということです。教育も平和であるからその機会を享受できます。放送大学で学んだことは、単に個人のスキルを上げるだけではなく、それを社会の中でどう生かしていくかが必要ではないでしょうか。特に人口減のなかでは社会で経験のある者の示唆が大いに役立つと考えています。ぜひ社会活動にも取り組んでいただきたい。また卒業後は放送大学の発展にご尽力を頂き、あわせて同窓会にもぜひご入会いただきたい。是非、島根同窓会に入会いただき一緒に活動をしていただきたいと思います。本日は、同窓会として心からお祝いを申し上げます。」と祝辞がありました。

卒業生を代表して岡本由起夫さんから「50年前に大学受験に挑戦しましたが、残念ながら志望校に進学



卒業生代表挨拶岡本氏

できなくて、担任に何時か必ず大学を卒業すると約束しました。

社会に出てからは仕事や家庭を優先して過ごしましたが、学ぶことへの思いは強く令和3年4月放送大学に入学しました。放送大学は年齢や職業に関係

なく、学ぶ意欲があればだれでも学



べる場を提供してくれる素晴らしい環境でした。また放送大学と島根大学との単位互換制度を活用し、異なる学びの場で新たな知識を得ました。学友との出会えたことも大変貴重な経験で、学びを通じて視野が広がり、改めて学びの奥深さを実感できました。卒業はゴールではなく、新たなスタートで、得られた社会に生かしたい」と挨拶されました。

## 2024年 第2学期 卒業を祝う会を開催



2024年度卒業を祝う会(祝う会)は2025年3月30日(日)11:40より、学位記授与式に続いて開催しました。

竹下会長より「祝う会にお越し頂き有難うございます。特に名誉学生の称号を得られました北垣様おめでとうございます。併せてご来賓の出口所長、荒川先生、大谷客員教員の皆さま有難うございます。」

「荒川先生、大谷先生は退任となります。ありがとうございました。」

「放送大学には、自分の関心のあるジャンルだけでなく、新しい発見に遭遇する珍しい大学です。だからこそ見識を深めることができます。」

「島根大学と単位互換制度を活用して面接授業単位を取得することが可能で、放送大学と他の大学との学ぶ相違点を知ることができます。是非挑戦してみてください。」「学生生活で感じたこと、運営に改善を要する点など忌憚なくお話しください。」と挨拶された。

出口所長より「入学者のつどいに拝見した学生さんが卒業式でも拝見できたことは、それだけ頑張られた証で、私は初めての経験です。コロナ禍以後学生同士の交流が激減してつながりが薄くなり危惧しています。皆さんご卒業おめでとうございます。」とご挨拶されました。

客員教員の荒川先生から「ご卒業おめでとうございます。放送大学とは5年間の付き合いで、ゼ

ミを通じて学生の方とともに学びましたが皆さんと同様に客員教員を卒業します。今後のご活躍を記念します。」と挨拶されました。

大谷先生は「任期途中ですが、多忙となり退任します。担当したゼミでは受講生からの質問は、多くの情報を取得しておられ、逆に私が学ばされました。常に向学心旺盛に学び続けられる皆さんは、いろんな知識をお持ちなので、今後は違う形で社会に貢献してください。今子供たちのために出来ましたら時間をお貸してください。ご活躍を期待します。」とご挨拶されました。

### 卒業生の皆さんから

今から56年前の1969年ですが、大学紛争で卒業式がなく、学位記を大学で受け取ることができませんでした。この年は宇宙探査機イトカワが無事に帰還したこと、金田正一投手が400勝を達成など、いろんな出来事がありました。放送大学では島根大学との単位互換制度を利用して学んだことは楽しい授業でしたが、特に数学の勉強では高校時代余り学ばなかったことから、基礎ができていなくて大変苦勞しました。今後は選科履修生として学びますのでよろしくをお願いします。」

「大学で  
学びたいと  
考えつつ、  
35年間看護  
師として働



き、退職を機に放送大学に入学し、20年を過ぎ4コース目の卒業です。初めのころの意欲はだんだんと薄れ、辞めようと思いましたが、退学するとやはり寂しくなりそうなので、継続入学します。今78歳ですが年齢的になかなか覚えられなくなり、挫折も多くありますが、もう少し頑張ります。」

「70歳までに大学を卒業が恩師との約束で、放送大学に入学しましたが、地域活動が多忙で土日の面接授業が受けられず、方策を探していたら、主婦学生から島根大学の単位互換制度で面接授業として単位を得られるし、オンライン授業でも可能と示唆され、3年後に70歳となるため、会社を辞職して島根大学に入学して無事に卒業要件を満たし、卒業することができました。4月か

ら博物館で実習があり、1年間お世話になります。」

「我が家の隣にある企業の社長がおられ、とにかく生涯勉強で勉強は裏切らないから、死ぬまで勉強だと話され、それで入学しました。良かったことは先生方や学生の皆さん、セミナーで色々なことを学んだことです。結局はこのような人たちと交流でき、今後も続けられるのならこれ以上の喜びはありません。今後とも宜しくをお願いします。」

「面接授業の英語とか心理学とか幅広く勉強できました。ある程度の所定の単位を取得するとエキスパート取得の申請ができると聞いたので申請しました。これからも他の資格を取得するため、更なる学びを続けたいと考えています。放送大学で勉強しているときは家族に支えられ、ほんとうに感謝しています。皆さん有難うございました。」

「放送大学との出会いは、後輩で公民館長していて、いろいろ話すうちに実は勤めながら大学で勉強していると話され、いろいろ調べたら放送大学で、10年かかかって単位を取得すれば、卒業することができるとのことで、私は70歳を超えていましたが私でも可能と考え入学しました。ところが履修中に元素記号の周期表が記憶できなくて苦悩していた時に、先生からただ知識を覚えるのではなく、理論的に理解することの示唆を受け目から鱗が落ちました。学ぶことによって何か自分の人生が豊かになるなと思いました。今74歳ですが後5コースを10年掛かるかも知れませんが何とか取りたい。まさに死ぬまで勉強をしようと考えています。今後とも宜しく願います。」

その後先輩からの助言と、卒業生を支えてこられたご家族から感想を述べられ、和やかに終わりました。



## 学位記授与を受けて

2024年度第2学期に学位記を授与されました23名の皆さんに、会報“たたら”にご投稿をお願いしましたところ、2名の方からご協力を戴きました。紙上をお借りして厚くお礼を申し上げます。

### 放送大学での学びと 地域活動への貢献

#### 生活と福祉コース 北垣幸久



この度、放送大学教養学部全6コースを卒業し「名誉学生」の称号をいただいたこと、大変光栄に思います。長年にわたりご指導いただいた先生方、物心両

面から支えてもらった関係者の皆様、いつも見守ってくれていた亡き母、そして妻に心より感謝しております。

社会人生活を終えた後、平成22年に放送大学に入学しました。現役時代に十分に学べなかった数学への探求心と、学園紛争で叶わなかった卒業式出席への強い憧れが、入学の大きな動機でした。小川洋子著「博士の愛した数式」に登場する「オイラーの等式  $e^{i\pi} + 1 = 0$ 」は、私の知的好奇心の扉を開くきっかけとなりました。

最初の履修は「自然と環境コース」。数学はもとより、当時話題となっていた「はやぶさ」の小惑星探査に触発され、宇宙に関する科目も多く学びました。入学1年目の研修旅行で島根大学との単位互換制度を知り、3年後にはその制度を利用して1年間「微分と積分」や「指数・三角関数」といった数学の基礎を学ぶ貴重な機会を得ることができました。還暦を迎えてからの大学生活は、知的好奇心を満たす喜びに溢れていました。放送大学での学びは、地域社会との関わりを深める契機にもなりました。授業「環境と社会」での学びをきっかけに、環境市民団体「くにびきエコクラブ」に加

入。「次世代を担う青少年の環境にやさしい人づくり」に微力ながら携わることができました。会の運営は決して楽ではありませんが、脱炭素社会の実現に向け、今後も貢献していきたいと考えております。

「人間と文化コース」で「日本文学の名作を読む」を履修した際、清少納言が生きた時代から変化した日本の四季、特に近年顕著な夏の長期化と秋の短縮に改めて気づかされました。放送大学での幅広い学びは、社会の変化や課題を多角的に捉える視点を養ってくれたと感じています。この度の名誉学生の表彰を励みに、今後も生涯学習の精神で、学び続けるとともに「くにびきエコクラブ」での活動を通して、持続可能な地域社会の実現に微力ながらも寄与できれば幸いです。

### 学びの喜びと、 さらなる挑戦へ

#### 自然と環境コース 岡本由起夫



私は69歳の時に放送大学「自然と環境コース」を卒業しました。学び直しの機会を与えてくれた放送大学に、心から感謝しています。私だけでなく妻も放送大学で

学んでおり、夫婦で勉強する楽しさも実感しています。夫婦で同じ大学在籍しても、学ぶ目的や関心のある分野はそれぞれ異なります。私は自然環境について理解を深めるために学びましたが、妻は動物や植物といった別の分野に興味を持ち、自分のペースで学びを進めています。同じ学び舎にいらながらも、それぞれが自分の関心に沿って学べることは、放送大学ならではの魅力だと感じています。

在学中の思い出として、特に印象の深いのは「島根大学との単位互換制度」を活用した学びです。放送大学の枠を超えて、島根大学の授業を受講できたことは、新たな視点を得る貴重な経験となりました。特に20代の学生たちと共に学ぶことは刺激的で、彼らの柔軟な発想や熱意に触れながら、自分自身の学びへの姿勢も見直す機会とな

りました。

また、島根大学の学食を利用することも密かな楽しみでした。学生向けに提供される食事は驚くほど安く、それでいて美味しい。昼食時の賑やかな雰囲気の中で、若い学生たちに交じって食事するのは、新鮮で楽しい体験でした。学ぶ環境だけでなく、こうした日常の一コマも、大切な思い出として心に残っています。

卒業を迎えた今、更なるスキルアップを目指し、新たな学びに挑戦しています。その一つが「学芸員資格」の取得です。放送大学で「博物館に関する科目」8科目16単位を修得し、4月からは「博物館実習」3単位を島根大学で修得する予定です。自然環境や文化財についての理解を深めることで、地域社会やボランティア活動に貢献できる道を模索したいと考えています。

そしてその一環として、妻木晩田史跡公園ボランティアガイドとしての活動にも力を入れています。得た知識を生かしながら、来園者に歴史や自然の魅力伝えることができるのは、大きなやりがいです。特に子どもたちと接する機会が多く、学びの楽しさを伝えられることに喜びを感じています。学びに終わりはなく、常に新しい知識を吸収し続けることの大切さを実感しています。放送大学での学びは、年齢を問わず、新たな可能性を広げてくれます。これからも学び続け、得た知識を生かしながら、社会とのつながりを大切にしていきたいと思います。

### アカデミックガウン姿で 卒業記念写真⑤



2022年度第2学期から実施しています、卒業された方のアカデミックガウン姿で記念撮影会は、今回で5回目となり希望された方は3人でした。

撮影はセミプロ写真家にお願ひし、ガウンの試着で先輩卒業生が見守る中、最

初はやはり緊張されていましたが、皆さんから祝福されて緊張がほぐれたのか笑顔も見えました。撮影を希望された卒業生の皆さんは同窓会に入会されました。誠にありがとうございました。9月開催の第1学期授与式には多数ご希望をご予約ください。  
(文責：竹下)

## 第18回市民公開講座を開催



恒例となっている通常総会を記念して、第18回市民公開講座を第2講義室にて開催。講師に島根大学法文学部准教授宮澤文雄先生（元放送大学島根学習センター客員教員）をお招きし、10月からラフカディオ・ハーンと妻小泉セツの夫婦関係に焦点をあてた、NHK朝ドラ『ばけげん』が始まります。参加者は定員をはるかに超え会場は満員となる参加者で関心の高さを伺えました。小泉八雲夫妻の仲立ちをした西田仙太郎（島根県尋常中学校教諭）に注目し、仙太郎が残された日記や資料が雑賀町の旧居から見つかり、幕末から明治中期の激動の時代を生き延びた松江の一青年の姿が、小泉八雲夫婦との交流、旧居の保存活動の紹介もありました。



## 社会貢献活動に 取り組む会員探訪①

### 松江市 伊瀬孝子さん



トレンタル山陰」の事務所があった。

放送大学で学ばれ、アートレンタル山陰の会社を経営され、そして国際ソロプチミスト松江会長を務めておられる伊瀬孝子さん取材しました。いただいた名刺の「国際ソロプチミスト松江会長伊瀬孝子」と書かれたその裏には「国際ソロプチミストアメリカ日本西リジョンは、経済的エンパワーメントをもたらすプログラムを通じて女性と女兒の生活を向上させる活動をしています」とあった。

きらめくように晴れ渡った今日の日差し（5月28日）。お話を伺いながら本社ビル3階の事務室にはときおり、爽やかな緑の風が入ってくるのが心地よい。

今回は松江市で国際ソロプチミストを通じて社会貢献活動に取り組まれている、伊瀬孝子さんをお訪ねしました。

——今日はお忙しい処を、どうぞよろしくお願ひいたします。放送大学の存在を知られたのは、どういったことがキッカケだったのでしょうか。

**伊瀬一** 大学へ進むということを決めていた高校



生の頃、これからはコンピュータの時代であるということについて凄く、気持ちが動かされ揺らぎ、両親は反対をしましたが、それを押し切って大学へは行

かなかったという、そのことがズッと私の気持ちの中に残っていました。そうして私が60代の半ばころになったときに「リカレント教育」（学校教育から離れた

後も、生涯にわたって学び続けること）というフレーズを知りました。

私はそれからそういったものをズッと探しておりましたらたまたま「学びたい！それが入学資格です」というSTIKビルの放送大学の横幕を見て、アアこれだと思って入学を決意し申し込みをいたしました。

——いろいろな人に今まで伺いましたが、あの横幕のキャッチフレーズを見られて放送大学へ入学されたというのは、伊瀬さんが初めてです。私たちの世代は生涯学習でした。「情報コース」を履修された動機とは何でしたか。また内容についても期待をされたものでしたか。

**伊瀬一** 最初は「人間と文化コース」を履修しました。次の「情報コース」は、大変興味がありました。それはパソコンを使用していて、インターネット・WEBの仕組み・デジタルメディアなど、言葉は聞いて知ってはいますが、どのような情報技術なのか内容が理解出来ていないため、学びたいと思ったからです。また履修内容については、学びたい内容でしたので、満足できました。コンピューターが人間の道具から、人間を支えるネットワーク化された、デジタルテクノロジーとして技術開発され発展したこと、またその情報技術（DX）が日本では災害時に技術が善用され、人の命を救うため普及していくなど、目からウロコ！状態で良い学びができました。

——学ばれたことが、日常生活において参考になっていますか。

**伊瀬一** 様々なデジタル化が進み、日常生活の中で利用者の善用、ルールなどの公共性が問われるようになることの気づき、またインターネットやDXが利用できない等、取り残される人を作らないことについて、考えるようになりました。

——伊瀬さんの会社名「アートレンタル」のA





ートというのには何か  
意味がありますか。

**伊瀬一** 当時職業別電話帳(タウンページ)を捲った時の最初の記載はアイウエオ順の「ア」から始まりますね。物事

の始まりであるその「ア」を大切に「アート」としました。最初の頃は皆さんから「絵をやっているの？」などと尋ねられました。

——企業の代表としてご活躍されていますが、創業はいつでしたか。

**伊瀬一** 昭和 51 年です。創業当時は家電小売業の「パパ・ママ、ストアー」でした。その後6～7年経って病院で貸テレビ事業を始めました。更にその頃からビデオデッキというのが出始めましたので、貸テレビにビデオデッキをプラスしたらよいのではないかと、そうしてそれが或る程度順調に進んでいましたけど、ある日突然病院からコイン式のテレビを設置するので、テレビを引き上げるように言われました。出雲や米子の方にまで貸し出していた800台あまりのテレビを前に途方に暮れる毎日でしたネ。そんなころ黒田町にたまたま空いていたテナントがありましたので、そこからベビーベッドとかベビーカーといった赤ちゃん用品。そしてまた旅行の時に使うスーツケースとかいったものが使われるようになったので、そういったものを扱うようになりました。そんなことを続けていたある日、建設業界のお客様から、「いっぱいある建設現場では事務用品が足りない」というお話を聞いてオフィス事務用品の事業をすることになりました。然し順調に運んでいたものの、ここでもまた「子会社でオフィス用品の事業を始めることになったので、商品を引き上げるように」ということになりました。幸い1年間の猶予がありましたものの、島根・鳥取と大きく事業を展開して社屋も新築をして順調満帆と思っていたのも束の間で、気が遠くなるほどの莫大な引き上げる商品のことを考えましたら、どうしようもない不安にかられ、これからどうしようとする毎日でした。

——発想の転換と先見性ですね。

**伊瀬一** 一度その時に「コンベンション・くにびきメッセ」が出来ると聞き、新しい会場設営の仕事や、イベント用品の需要があると見込み、それを手掛けるためにはノウハウを学ぶ必要があると考え、東京の幕張メッセに通い他の業者の建設現場の視察、多種多様なイベント企画などを学びました。

お客様はもっともっと大きなことを望んでおられるのに、こちらのキャパシティがそれに伴わなかったら、お客様を満足させることはできないですからね。また他の同業者と同じレベルのものなら「負けるかもしれない」という不安が常にありますから、そのためにはこちらが何倍も努力をしなければいけないということも学びました。例えどんなに忙しいときでも、夜中の2時だろうが3時だろうが、お客様から要望を受けたなら絶対に叶えてあげることが大切であるとの信念で、実行してきました。「出来ない出来ない」ではなくて、「出来ること」から考えて実行をしていくということですね。

そしてイベント事業を展開するには資格が必要であることを知り試験を受け、中四国エリアで、はじめての女性資格者となりました。

くにびきメッセで会場設営をしている時、女性が男性を従えて指示をしていることがまだ珍しい時代でしたので話題になり、仕事が舞い込んでくるようになりました。そして、下請けから元受け体質へと転換していきました。来年 2026 年 5 月には、創業 50 周年記念イベントをくにびきメッセにて開催予定です。思えば立ち止まることなく、振り返る間もなく、前へ前へと進んで来たように思います。その間には様々な苦難がありましたが、その度に誰かに、何かに助けられ、運が良かったと思っています。

——同窓会に入会された動機は何でしたか。

**伊瀬一** 放送大学で学ばれた諸先輩方との交流



を通して、学力だけではなく、人としての学びを得たいと思ったからです。



——アカデミックガウン姿のご感想は？

**伊瀬**—アカデミックガウンに身を包みますと、卒業という目標を達成した喜びと共に、とても厳かな気持ちになり、写真がよい卒業記念になりました。

## 世界で約 68,000 人のクラブ会員

——ソロプチミスト活動に参加された動機とはなんでしたか。

**伊瀬**—世界中の子供たち（特に女兒）の地位向上や貧困を支援する活動に賛同したからです。

——ソロプチミストの組織について、その概要をご説明いただけますか。

**伊瀬**—ソロプチミストは、経済的エンパワーメントを達成するのに必要な教育と訓練へのアクセスを女性と女兒に提供するグローバルな奉仕団体です。約 120 の国と地域の約 68,000 人のクラブ会員が、女性と女兒を教育し、エンパワーし、様々な機会を与えるために地域や国内のあらゆるレベルで連携をして活動をしています。

——ソロプチミスト松江の会長をされていますが、会の運営につき



ご苦勞がありますか。

**伊瀬**—会員数の減少が一番の悩みです。コロナ禍以前と比べて半数まで減少しました。今は当時半分位ですかね。中四国におけるクラブ数も 110 位はあったんですが、今は 80 と少し位ですかね。活動資金調達のため、様々なチャリティー活動を行いますが、高齢化もあり負担が大きく活動への参加も年々難しくなっています。

——社会でのソロプチ



ミスト活動についてご感想をお聞かせください。

**伊瀬**—ソロプチミストは、女性と女兒に焦点を当てた活動。支援事業を行っていますが、まだまだ知名度が低く、知名度を広める広報活動の強化に力を入れるようにしたいと思っています。

——ソロプチミスト活動と日常生活との関連は如何ですか。

**伊瀬**—私たちのおおきな活動のひとつに、長年松江市立皆美が丘女子高等学校生徒会の皆さんと、JR松江駅前におきまして、12月1日「世界エイズデー」の日に、エイズ撲滅運動を行っています。若い世代の方々に、エイズを理解してもらい知識を得ていただく機会になっております。この様に地域の高校生と活動を共に続けていくことが日常生活においても、意識が高まり、情報共有もでき継続的な社会貢献活動に繋がっていくように思います。

——伊瀬さんが感動をされたこととか、日ごろ大切にされていることは何でしょうか。

**伊瀬**—子供の貧困問題がいつも心にあり、地域の方々と共に公民館を利用して、子供に食事等の提供できる食堂を考えたこともありましたので、今は子ども食堂が出来たことを喜んでます。感動したことのひとつに、松江市の「ミラチャレ」（しまね未来共創チャレンジ）で、障がいのある高校生が障がいの有無に関係なく、誰もが気兼ねなく楽しめるカフェを作りたいと、一生懸命にサポートの方の助けを借りて、ドリップコーヒーを 30 分くらいかけて提供される姿に感動を覚えました。自分だけではなく、同じ境遇の人たちに寄り添いたいその思いに心を揺さぶられました。現時点では出来ない事が多い障がいのある方でも、今後はコンピュータや AI ロボットの人に貢献する技術で、不可能を可能にする研究・技術が開発されることを期待し、障がいがあっても自立して働くことが出来る仕事の場所作りなどが実現できるように、全ての方たちの希望になればと願っています。

——座右の銘とかありますか。愛読書は何でしょうか。

**伊瀬**—座右の銘は、「陽はまた昇る」です。挫折感を何度も味わいましたが、「いつまでもこれが続

くわけではない・好い日がまた来る」というこの言葉は、困難なことが降りかかったとき、希望を見失わないための心の支えとなる、私の大切なフレーズです。

——愛読書は如何ですか。

**伊瀬一**愛読書は松下幸之助氏の実践経営哲学書です。『経営の心』とか『素直な心になるために』など、松下幸之助氏の著書が置かれてあった。家電販売（ナショナル、現パナソニック）が最初の出だしでしたので、そんな関りからです。

松下幸之助氏の話されることは突拍子のないものではないんですが、たとえば「儲ける」という言葉には何か後ろめたさを感じる人も居ますけど、松下氏の場合は「堂々と儲けなさい」と言われ、「人としての商売」・「人の心に通じるもの」そんなものが前提だからです。「二股ソケット」にしても最初からアレが売れたわけではなかったんですね。

幸之助氏は常に「諦めたらダメだ・やろうと思ったら最後までやりなさい」と言われていました。「人間というのは、一人ひとり異なった持ち味をもっている。他人が上手くやっているからと言って必ずしもそうではない。自分の持ち味に合ったやり方を生み出すことが成功に繋がっていく道である」というこの言葉をいつも、人生の指針にしております。



——松下さんの経営理念には常に「社会貢献」というものがありましたから。ところで推理小説もお好きと伺っておりますが。

**伊瀬一**子供の頃からミステリーものが大好きだったんですけど、松本清張は、本当に細かいところまで全部自分の脚で歩いて調べて書かれていますね。歴史ものなんかにしてもそれが根底にあるという、スゴイ勉強家ですね。私はそういった推理力を働かせ、たとえば置いた筈の物が見えなくなった場合に、探していたものがよく見つかるんですね。

——最後に放送大学への希望などがありましたからお聞かせください。

**伊瀬一**最近話題のチャットGPAや生成AIとか、よく聞くフレーズなのですが、どのように使うのか、初心者でもわかり易い勉強会があればと思います。「いろんなことが出来る」ということは感覚的には分かりますが、時代にも取り残されないために今、5～6名で勉強会をやろうとしているんです。

それからまた放送大学の方でも詳しい方がおられたら、同窓会の方でもそういうことを考えていただければよいな—とっております。

——同窓会としましても是非そういったことに取り組んで行きたいと思っております。本日はお忙しいなかを本当にありがとうございました。

身振り手振りを交えて上手に饒舌に、あるいはお尋ねをする一つ一つのことについて、深く考え込みながら若しくはじっくりとことばを選びながら、飾ったように話されるということもなかった。そうしてそれが伊瀬さんの、真摯で誠実で魅力的な雰囲気となっていた。

——最後にこんなことをお尋ねしてみました。

「心の支えとなったものはなんでしょうか？」

**伊瀬一**「勝ちたいとは思わないけど、負けたくはない（殊に理不尽なこと）」と云われた。

——なるほど・・・「殊に理不尽なことには負けたくない」と云われるそんな姿勢が、伊瀬さんの凛とした雰囲気、それであったのかと私は頷いた。

『徒然草』のなかに双六の名手という次のような話がある。『徒然草』第110段。「勝たんと打つべからず。負けじと打つべきなり」とあり、更に「身を治め、国を保たん道もまたしかりなり」とある。すなわち自己を治め自己を磨くのもあるいは、企業を興しこれを経営することも、更に大きくは国を治めることも、伊瀬さんの話されたこととは、これは双六の名手と同じこと（成功への極意）なのである。

——「ユニセフとの関りとかはありますか？」

**伊瀬一**「全国各クラブへの寄付金」は、ユニセフの方へ寄せています。

——本日はお忙しい中お時間を頂きまして、誠にありがとうございました。今後とも益々のご発展を記念いたします。また島根同窓会にも是非お力をお貸しください。

## 取材を終えて

女性と子供たちの地位向上や貧困への支援。エイズ撲滅への運動など、地道なそういった活動、社会貢献を続けられて、「私達の暮らすこの社会が少しでもよくなるように」というソロプチミストの、その姿に共感を覚えました。

ソロプチミスト活動が広く世間に知られて、そしてまた、伊瀬様の事業の、益々のご発展がありますことをお祈りいたします。また来年は創業50年の記念の年であり、国引きメッセでのイベントを開かれるということで、大いにご盛況となりますことを祈念いたします。



その後のニュースで、島根県中小企業団体中央会総会が6月11日開催され、役員改選で3人の副会長が交代となり、新たに伊瀬孝子さんが就任されたとの報道がありました。女性経営者として益々ご活躍が期待されます。

生涯を貧困と病に苦しむ人々の救済にささげ、1979年にノーベル平和賞を受賞したマザーテレサは、こんな言葉を遺しています。

「ここに苦しんでいる人がいることを知ってください。そのかたの痛みを思い出してください。それはけっして大げさなことではないのです。あなたのまわりにもあなたの愛を待ちのぞんでいる人がいるはずです。どうぞ、そのかたに手をかしてあげてください。これが私のお願いです。ありがとう・・・神様からの祝福がありますように。」

マザーテレサ



## 地区会員の近況報告 (西部・中部地域) 執筆累計者数 39人

### 老いゆく人を見つめながら

大田市 板倉直之



我が家には今年6月に100歳になった祖父がいます。去年から通い始めたデイサービスは今年から週4日になり人との交流も増えました。

朝夕の散歩は毎日欠かさず行っています(万歩計は日に1万歩を超えることもあるようです)。体のあちこちが痛いと言っていますが元気に毎日を過ごしています。ただ、老化に伴う認知機能の低下はどうしようもなく、98歳の時には趣味の写真編集で操作していたPCの使い方がわからなくなったり、携帯電話の使い方がわからなくなったりとできないことが増えました(この年齢まで扱えていたこと自体すごいことですが)。本人はそんな自分を“情けない”と言い現状を受け入れられませんでした。

適度な運動、3食の食事、常に学び続ける姿勢、これが整い100歳という年齢に到達できたのだなと思います。

祖父の世話をする母と毎日話をしますが、その中で祖父が“死に対する恐怖”を強く持っているという話が最近よく出ます。“死を受け入れ、心穏やかに過ごす～”というような言葉を聞いたことがあります。ありますが当事者にとってそれを受け入れて日々生活をしていくことは大変なことであると思います。

祖父が人生の最期をどのように迎えるのか、今は想像もつきませんが確実にその時は近づいています。その生きざまをしっかり見届け、私もこの先の人生を歩んでいきたいと思う最近です。

特別会員足立悦男先生が「白鳥省吾賞」を受賞されました



放送大学島根同窓会特別会員であり、また当会の顧問・相談役をお願いしている、島根学習センター一元所長の足立悦男先生がこのたび、「白鳥省吾賞」を受賞されました。

「境港市新屋町の足立悦男さん(78)＝島根大名譽教授＝が少年時代の思い出を詩にした作品「地引き網」が詩の公募展「第26回白鳥省吾賞」(一般の部)で最優秀賞に選ばれた。地元・弓ヶ浜半島のかつての情景を方言も交えて詠んだ口語自由詩で生命の躍動感や風土の匂いが伝わると評価された。公募展は大正・昭和初期に活躍した民衆派の詩人、白鳥省吾(1890～1973年)の功績顕彰事業として宮城県栗原市などが主催。「自然」「人間愛」をテーマに2024年7～10月に作品を募り、高校生以上の一般の部には857編が寄せられた。」

これは山陰中央新報(5月8日)に紹介された、足立先生のご受賞記事です。

足立先生にはまた学生サークル活動「だんだんサロン・表現の会」において毎月一回、「作文の時間」・「おしゃべりの時間」において、一緒に学ばせていただいております。

次に挙げているのが今回ご受賞になられた、

「地引き網」の作品です

「地引き網」

網引きに行かいや へちやげたバケツを握りしめて 母の後をついていった

浜辺はてご人(手伝い) であふれていた 広い三保湾の向こうから朝日が上がる

日の光が湾を照らす 網を仕掛けた二艘の舟か陸にあがると 沖合から二本の

太い綱が浜まで延びて 女たちが群がる 黙々と 黙々と 綱を引く

女たちの顔を朝日が照らす 子どもたちも太い綱を握って引く 黙々と

黙々と 綱を引く 子どもたちの顔を朝日が染める 近づく袋網いっぱい魚群が

跳ねて 銀色のうろこが爆ぜてまばゆい 漁師がいつせいに袋網にとりつく

四方から大ダモを投げ入れて魚群をすくうと 大きな箆に投げ込む 箆一杯の

魚が朝日に染まっていく 女たちは手にしたバケツを投げ入れて 魚をすくう

バケツ一杯がその朝の報酬であった 子どもたちもひしやげたバケツで魚を

すくう その朝の子どもたちのお駄賃だった バケツからはみ出た魚たちが

陽の光を浴びて跳ねた 跳ねていたのは魚でなく 魚のかたちをした命であった

「かあちゃん、いのちがはねとう」「だらすが。魚が跳ねとうだわね」 母ちゃん

は怒ったように言った バケツの魚たちを見た 命が光を浴びて跳ねていた

先生のご受賞を皆様方と共に喜びたく思います。そして素晴らしい先生のもとで、「だんだんサロン・表現の会」において皆様も一緒に、表現(注)活動をしてみませんか。

(注)「表現」の手段とは様々です。たとえば落語やお笑いを一席。あるいはご自慢の喉で歌・謡を披露することでも。そしてまた、チョイと浪花節を喰ってでもかまいません。もちろん文字・詞による、小説や詩歌やエッセイなど・・・大歓迎です。

「だんだんサロン」表現の会

代表(取締役) 知野見 孝信

## だんだんサロン発表作品②

### どのお星さまかなあ～

米子市：金田文子



11月8日、赤いお月様(皆生月食)を囲んで綺麗に優しく光っている数個の星を見ながら、「あのお星さまかなあ～」「向こうのあのお星さまかなあ～」「どのお星さまかなあ～」「いやいやまだ日が浅いからあんなにヒカらないかもなあ～」など、いろいろと浮かぶ。

国道431のけやき通りを通る度、必ず数々の思い出がよぎる。胸がつまり、心で手を合わせながら行き過ぎる。横目で探して目に入るあの家にはもう知らない方が住んでいるのか、夜には明かりが点いている。過行く月日のなんと速い事、もう丸3年が過ぎる。

「澄谷くんの澄川さん」今どうしてますか？放送大学で興味のある行事には必ずと言っていいほど連絡が入ってきた。



(在りし日の澄川さん) 連絡が入ってきた。

「・・・もぐもぐ・・・ああかねださん、あのね」「あらっ澄谷さんこんにちは・・・ペチャクチャペチャクチャ・・・」しばらくしてから、「・・・もぐもぐ、あの一ボクの名前澄川です」「あらっ！ペチャクチャペチャクチャ・あらあ！ごめんなさい」と私。彼「・・・あのう・・・、ですねー」と何時もゆっくり、ゆったりモードで始まる。

聞き間違いなのか、どうしてなのか分からないが、私の携帯には「すみなに」と入っていたので(訂正してないので)何回かこの様な事があった。宇宙に住所が変わった現在も、まだ携帯の中にはそのまま入っている。

「おしゃべり会・作文の時間」(現在は表現の会)いつのころからか参加される様になった「澄川さん」。一番大好きで大切にされていた。元気いっぱい、夢多き学生時代、そして今現在を足立先生に

存分に語り作品化する事がとても嬉しそうだった。いつも作品は超ロマンチック。「そのロマン、いったい身体のどこに住んでるの!!」と70歳は超えている彼によく聞いた。早稲田大学7年、慶應義塾大学2年在籍(卒業なし)随分親を泣かせたねえ～

と私、「ボクは子供にはできなかつたけどネッ!!」と彼。どんなおしゃべりにも何時もニンマリニンマリ。「息子2人は人助けの仕事をよくやっているよ。〇〇子さん(奥さんの名前)もよくやってくれてるよッ!!」とニンマリニンマリ。でも学生時代の学生運動の話になると途端に語気が変わる。ある時きっかけがあつて重い話を聴くことになった。

彼をよく知る知人も交えて2人で聴いた。如何にする事もできなかった内容だったけれど、2人で聴いた。また彼はネットで知り合った外国人を数日間宿泊させ、お世話していた。

ある日帰宅したらその外国人荷造り中。そのケースの中には澄川さんのものが一杯詰め込まれていたとの事。あーそれってみんなボクのもの!!

「だっていいのだから欲しい!」「う～んじゃああげるよっ」そしてその外国人帰り際「また来ます」と言って出て行ったとの事。

これには2人とも「口あんぐり!!」。もうはじき出る言葉で叱り飛ばす。それには彼も「そうか」といつものニンマリ笑顔で深く頷いてていた。先日には何処かの見知らぬ女性が訪れ、車を褒めて「〇〇スーパーまで乗せて」「お金貸せて」とか、・・・これにも2人から沢山の「ダメダメ」という時間でもあつた。

そして時間が過ぎた7月のある日、私のグループがアメージンググレースを唄う事を知り「是非、是非参加希望」という事で一緒した。その時少し身体がふらついている様には感じたけれども大変な喜び様で、指導者との会話も弾み、楽しく唄って、そして自慢の車で参加者の1人を「女性だったら何時でも大切に送りますよ」とジョークを飛ばしながら笑顔で出発、みんなで手を振って見送った。最初朝食は喫茶店とか、今頃はコンビニ食と「そんな事今後続かないと息子に叱られている」語る。

8月に入り3回訪問するが3回とも車はあるのに何処も鍵が閉まってる。電話も通じない。何時も訪問時にはメモを挟んでいた4回目の訪問時、車の中を覗いたら助手席に赤十字マークの紙片があり、なんとなく嫌な予感を感じた。

9月の放送大学課外授業の帰り、バスの中で訃報を知り言葉がなかった。訪問のたびごとに夏草が増え、待ち時間に草抜きしてきた庭の様子が昨日のように思い出される。

「アメージンググレース」、一段と深い思いを感じる。かって「日野原重明先生がボクの見送りは何も要らない、アメージンググレースだけでいい」とおっしゃった言葉が思い出される。

長年念願の「外車」「新品エレキギター」の購入、放送大学のつどいでは待望の「ギター演奏」が出来、「米子出身の売り出し歌手の後援」にも思う存分パワーを注ぎ「大好きなカラオケ」で日々を過ごした「澄川さあ〜ん」。「今どーしてますかあ〜!!」「どのお星さまですかあ〜」「したい事沢山出来ましたよね〜」「よかったですね〜」「あんしんしてしっかり輝いてくださいねー!!!!」いつでもニンマリ、息子さんを語るときは特にニンマリの「澄谷くんの澄川さん」なかなか思い出は消えません。消そうにも消えない「澄川さん」

「とっても綺麗に輝くお星さまでしょうネッ!!」

「お祈り致します」(2022年11月19日発表)

## 新役員のご紹介

### 副会長就任にあたりまして

大田市 知野見孝信



「借金を避けるためには自分の収入に見合った生活をするのが重要だ」という俗諺がありますがこの度、放送大学島根同窓会副会長という我が身の収支

の丈を超えた、大役を申し付けられました。

さて先般、第13回通常総会が開催されましたが、2025年度の活動計画案にも在りましたよう

に、登録会員数の増加・会員の要望事項実現・地域での社会貢献活動その他の案件事項、これらのことを皆様とともに歩調を合わせながら、そして島根学習センターと更なる連携強化によって推進をしてゆきたく思っております。

先日一寸竹下新副会長と「石川新会長の体制の<sup>下</sup>これを支えて、そして大いに盛り上げていきましょう」ということを話し合いました。

「樗櫟之材」(ちよれきのざい)のような木端な、不器用者のポッターさん(注)の私です。今回このような身の丈を超えた大役の借金を抱えたことで、首が回らなくなり、「人参飲んで首を括る」ことなどが無いようになど、こんなことを案じております。

皆さまどうぞよろしくお願ひいたします。

(注) =ポッターさんとは頭が悪くて・勉強が嫌いで・勉強が出来ない子供のことで。出雲地方の方言です。

## 新会長の支えとなって

副会長 竹下靖彦



5月10日開催の第13回通常総会において、設立時から会長を務めさせていただきましたが、本総会の役員改選に

より辞職致しました。

新たに新会長を支えるため副会長として残留することを求められ、高齢となりましたが会の運営に必要であるならと承諾致しました。

しかし、誰が考えても院政と取れないよう、新会長に配慮して運営に参加をする決意です。

私は「事務局」と「広報部会長」を新たに担当し、引き続き同窓会報「たたら」の企画編集に取り組みことになりました。

## 役員就任にあたって

防災士・孤立・孤独サポーター  
長谷川 工



放送大学との出会いは、消防吏員時代に市民の皆様に質問する機会等があり、相手を何気ない言葉で傷つけていないか？と普段から考えておりました。その様なことから、生活学入門から私の放送大生活が始まりました。傾聴の技法に心理学実習で学んだ錯視他・心理学の多くの科目が特に勉強になりました。現在は防災士として米子市の人材バンクに登録させていただいております。また孤立・孤独サポーターとして鳥取県知事より任命書をいただき、駆け出しとして日々いろいろな課題に悪戦奮闘中です。富士見町自主防災会長として、防災サロンを主催しており、地域の皆さんと一緒に災害の備えと避難・備蓄などについて勉強中です。

## 理事に選任されて

松江市 北垣幸久



この度、2025年5月10日開催の第13回通常総会におきまして、理事に選任されました北垣幸久です。

10年前の2015年4月に入会以来、島根同窓会の皆様には大変お世話になりました。今後は理事という立場で、微力ながら皆様のお役に立てるよう努めて参りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

ひとりじゃないよ、  
仲間がいるよ

出雲市 足立一政



島根同窓会役員を仰せつかりました足立一政と申します。放送大学に入学したころ、本当に少しずつ勉強を進めているとき、複数コースを修められている諸先輩方の経歴を聴くにつけ、とても「無理かも」と感

じていました。そんな中、先輩の話を聞く機会があり、諦めずに自分のペースで一步步階段を上がっていけば、何時かはたどり着くよとの言葉に勇気をもらい、12年掛りましたが学位を取得できました。

今は10年計画で修士取得を目指しています。今回この機会をいただき「一人じゃあないよ、仲間がいるよ」に少しでも、お役に立てればと思ひ参加させて頂きました。よろしくお願ひします。

## 役員退任挨拶

大変長い間お世話になり  
有難うございました

前会長 竹下靖彦



会員の皆さまお変わりございませんか。

設立以来、長きにわたり同窓会長に選任され、何とか次

世代にバトンをお渡しできました。

本当にありがとうございました。配慮に欠けつつも役員と会員、学習センターの皆さまに暖かく支えていただき、どうにか会長職を務めることができました。改めて感謝を申し上げます。石川新会長を補佐して同窓会の発展に努める次第です。

放送大学と島根同窓会についての思い出は限りなくありますが、新たに組織を立ち上げる苦悩は加齢を重ねながらの体験となり、楽しくもあり、辛くもあり、よろこびもありが混在しての人生でした。特に設立に至る当時を記憶の確かなうちに、少しずつまとめ記録にとどめたく考えています。

2013年3月当初より念願とされていた島根同窓会設立に関わり、当時の学習センター足立所長、渡部事務長、石原学友会長、サポーターの私(1年後に卒業予定)を含め4人で準備にかかり、前年に設立された鳥取同窓会の経験を学ぶため、足立所長、渡部事務長が訪問され組織の立ち上げ、会則、設立総会までの準備などにつき、詳しくレクチャーを受けられ本格的に動き出しました。手始

めは卒業生名簿の整理からでした。

当時同窓会の未設立は4県(岩手、福島、三重、島根)のため、1年後に設立準備会を立ち上げ、タイムスケジュールを立て、逐一クリアーして設立を目指しました。

卒業生に設立と入会の賛否を依頼したら、同窓会の必要性和入会希望者が100人近くなり、財政的にも可能と確信を持ち、翌年3月末に設立となりましたが、総会までの入会希望者は半数の赤穂浪士なみの47名でした。

設立総会では、会則の目的に「社会貢献活動」は各大学の同窓会には記載がなく、単に「会員相互の懇親」で良いと修正意見が出され、議論の末に必要であるとの意見で原案が承認されました。

今後初期の取り組みを回顧し連載します。

## あれから12年経ちました



前会計担当理事 森脇エイ子

放送大学の発展に寄与する、卒業生相互の交流と親睦、社会貢献、の趣旨のもと、総会に於いて同窓会設立が宣言され、竹下会長以下12名の役員で発足致しました。

竹下会長はじめ皆さまの豊富な知識と社会経験、キャリアの持ち主でスムーズに議事が図られスタートいたしました。

早速、専門部に広報部を設け、まず会員に周知するべく広報誌“たたら”を発行することが決定いたしました。

会を運営するに当たっては安定的な財源が必要であり、会員の皆さまに会費(当初は5年3,000円のちに3年で3,000円)をお願いすることに。

私は理事会計を担当する役目を受けました。如何に経費を縮減するかということから、“たたら”印刷を民間業者委託から、竹下会長主導でネット印刷に代替するなど、着々と事業運営が図られ、成果を収める様になりました。

活動スタート

～地域社会貢献の一貫として、里山緑化運動に参加～

森林は地球温暖化防止を果たす役割を持ち、森林整備、緑化運動に会長はじめ会員、役員の皆さまが参加されています。

～島根県から消費者問題の委託事業～

地産、地消と健康事業を考える集いを行う

- ・島根県認証制度「美味しまね」取得者の出雲製茶の出展で試飲会

- ・会員の看護師有資格者の支援に依り、血圧、骨密度測定など健康度チェック

- ・島根県レクリエーション協会に協力依頼し、スポーツ吹矢体験など市民との交流を行った

～卒業生相互の交流と親睦を図る～

放送大学と面接授業「離島から日本を変える」と共催で隠岐へ研修旅行。海士町の“平成合併”なく単独町政について、町長の講演と職員の取り組みに触れ感銘を受けました。翌日は専門家の案内で見学

行在所まで 雑木落葉を 踏みにけり

- ・中国山なみ街道開通を機に、平山郁夫美術館でシルクロードを中心の絵画にふれる。密柑の産地訪れる。

旅うらら 詰め放題の 瀬戸密柑

- ・岡山県の矢掛町石井家、篤姫が家定に嫁ぐ折宿泊した場所を訪れる。

秋澄めり むくり屋根てふ 御成門

- ・納涼会、忘年会で親睦

- ・5年間所長を務められ親しく接して頂いた佐々所長の退任記念講演で、外国の絵画に触れ、ここに奥様のピアノ演奏のサプライズがあり、美しいメロディに感動し、素晴らしい時間を持ちました。

- ・連合会 中国四国地区同窓会でのホスト県として開催

竹下会長統括の下、石川実行委員長、委員、女性文化部のおもてなし、岩永学長、連合会会長来席のもと40数名で開催。小泉凡様の講演など多彩な行事で、有意義に開催され、実行委員、役員方々は多種多様な準備万端で見事に終了。さすがと感心致しました。開催行事、宿泊、市内案内等2日にわたる行事に各県参加者より絶賛の賛辞を贈られ、有終の美を飾られた。夜の懇親会も大盛り上がりで竹下会長による石見神楽でした。

神有り「恵比寿」神楽に大喝采

拙い旅の句を載せましたが、ご笑覧いただければ幸いです。

先述のように、同窓会の3本柱が順調に果たせつつあります。会長の見識の広さと行動力には頭が下がります。その裏方として、微力ながらお役目が果たせたかどうか、自問自答しております。何度も通った役員会、各種行事、数々の研修旅行、皆様との出会いが楽しく、色々と学ばせて頂いたり、優しく接してくださいました。本当にありがとうございました。後継の役員の方達も素晴らしい方達です。どうぞよろしくお願い致します。

会の益々の発展をお祈りいたします。

## 第28回 同窓会連合会総会参加報告

会長 石川直樹

6月7日(土)～8日(日)放送大学本部図書室3Fにおいて、第28回連合会総会が開催されました。

島根からは石川副会長が参加したので総会模様を以下のとおり報告します。今回の参加は41同窓会でした。



南谷同窓会連合会会長の挨拶のあと、2024年度活動計画(1号議案)、決算・監査報告(2号議案)、

2025年度活動計画(3号議案)、予算案(4号議案)、役員案(5号議案)について、説明があり討議が行われました。

1号議案では各同窓会への補助額は維持することの説明があり、2号議案では抱えている在庫は財産目録に計上すべきではないという意見があったが、一般企業ではないことと従来からの方法で計上したとの説明があった。3号議案ではZoomの費用を一般会計に予算化したと説明がありました。また、同4号議案の、繰越額が減っているが大丈夫かとの質問に対し、2026年度から費用削減に努める、との回答がありました。また、5号議案では新会長に須藤栃木同窓会会長が選出され、それぞれ採決の結果すべての議案が了承されました。

続いて、放送大学同窓会連合会創立35周年記念行事が行われました。須藤会長の挨拶のあと、岩永放送大学学長より祝辞をいただき、その後歴代の連合会会長への感謝状の贈呈が行われました。その後、パネルディスカッションに移り、連合会の立場から、東北・北海道地区交流会・南関東地区交流会が、参加同窓会の意見として東北地区交流会の意義と課題について、富山学窓会から報告がありました。

場所を大学本部玄関前に移して、35周年記念植樹(公孫樹)前で記念撮影を行いました。

2日目の6月8日(日)は、全国の同窓会との情報交換会が開催されました。事前に提出した情報交換シートに基づいて、発表と意見交換を行いました。持ち時間が少なく十分な討議ができなかったのが残念でした。各同窓会とも会員・役員の確保に苦勞しているとの発言が多くありました。特に地方の同窓会にその傾向が顕著でした。



今後、他同窓会の成功事例を取込み会員確保につなげて行きたいと思います。予定時間を大幅に超え15時頃に終了しました。

## ◆同窓会の活動日誌◆

(2025年1月～2025年6月)

### 【1月度】

- 10日(金)会報たたら最終校正
- 14日(火)会報たたら印刷所脱稿
- 14日(火)卒業論文発表会開催案内
- 15日(水)古文書を読む会
- 18日(土)会報たたら発送準備作業
- 21日(火)会報たたら発送
- 22日(水)会報執筆者へ礼状発送

### 【2月度】

- 13日(木)役員会資料作成&送付
- 19日(水)古文書を読む会
- 21日(金)第10回古文書を読む会
- 27日(木)第57回役員会 (Zoom)

### 【3月度】

- 17日(月)会報原稿執筆依頼
- 19日(水)古文書を読む会
- 29日(土)第2学期卒業を祝う会会場準備
- 30日(日)第2学期学位記授与式
- 30日(日)第2学期卒業を祝う会
- 30日(日)同アカデミックガウン撮影会

### 【4月度】

- 1日(火)市民公開講座講師と打合わせ
- 9日(水)決算書・予算書資料作成
- 12日(土)2024年度会計監査
- 15日(火)第58回役員会 (Zoom)
- 16日(水)古文書を読む会
- 20日(日)第13回通常総会資料発送

### 【5月度】

- 7日(水)会報たたら原稿依頼状発送
- 9日(金)第13回通常総会会場準備作業
- 10日(土)第18回市民公開講座開催

- 10日(土)第13回通常総会開催
- 13日(火)会長・会計業務引継ぎ
- 21日(水)古文書を読む会
- 24日(土)第59回通常総会資料
- 28日(水)会報取材(伊瀬孝子さん)

### 【6月度】

- 7日(土)第28回連合会活動交流会
- 7日(土)連合会35周年祝賀会
- 8日(日)連合会全国活動交流会
- 12日(木)第40回広報部会
- 18日(水)古文書を読む会
- 20日(金)会報たたら編集作業
- 23日(月)会報たたら編集作業

## 新会員のご紹介

岡本由起夫さん：2024年度第2学期卒業  
山根 佳子さん：2024年度第2学期卒業  
ご卒業おめでとうございます。  
これからもよろしくお願ひします。

## 第7期通常総会で選出の役員

2025～2026年度 (アイウエ順)

会 長 石川 直樹 (新) 松江市  
副会長 琴野 正義 (再) 浜田市  
々 竹下 靖彦 (新) 松江市  
々 知野見孝信 (新) 大田市  
理 事 飯塚 裕子 (再) 安来市  
々 北垣 幸久 (新) 松江市  
々 竹下 孝子 (再) 松江市  
々 長谷川 工 (新) 米子市  
々 古川 貞美 (再) 日野町  
々 山縣 慶子 (再) 江津市  
監 事 足立 一政 (新) 出雲市  
々 田中 秀典 (再) 松江市

## 同窓会 当面の行事案内

### 2025年度 第1学期学位記授与式開催のご案内

日時 2025年9月28日(日)10:40~11:40 (共催:島根同窓会)  
会場 島根学習センター 3階 「第1講義室」  
対象者 2025年度第1学期の卒業要件を満たした学生・修士修了者の皆さん  
※卒業者を祝福するため、先輩の皆さんご参加をお願いします

### 2025年度 第1学期卒業を祝う会開催のご案内

日時 2025年9月28日(日)11:40~13:00 (共催:島根学習センター)  
会場 島根学習センター 4階 「第2講義室」  
対象者 2025年度第1学期学位記授与の学生・修士修了者の皆さん  
※卒業者を祝福するため、先輩の皆さんご参加をお願いします

### 2025年度公開講演会&卒業研究・修士論文発表会開催

日時 2025年12月6日(土)13:00~15:30 (共催:島根学習センター)  
会場 島根学習センター 3階 「第1講義室」

#### ①公開講演会 (13:00~14:00)

演題 「老化期の転換予防について—高齢者から幸齢者への第一歩—」

講師 岡田修一先生 (放送大学兵庫学習センター所長・神戸大学名誉教授)

#### ②論文発表会 (14:00~15:30) セツ

修士論文2題、卒業論文1題

発表者 2024年度修士論文&学士卒業研究発表者

※各論文発表をされる学生を激励するため、会員皆さんのご参加をお願いします。

### ～編集後記～

今秋放送予定のNHK朝ドラ「ばけばけ」はラフカディオ・ハーンの妻小泉がモデルのドラマです。私が修論のテーマに悩んでいたとき、当時の内藤所長のアドバイスを受けて、「ラフカディオ・ハーンと松江市民とのつながり」に決定したことを思い出しました。

その縁もあって現在も放送大学と八雲会(顕彰団体)に関わらせていただいています。

思えば不思議な縁だったと思います。もし相談に行っていなければ、今の自分はどうなっていたのかなと思います。そんなことを考えながら、秋の放送を楽しみに待っています。(直)